

●ピアノ・トーク・朗読
青柳いづみこ

●ゲスト
高橋悠治 [編曲・ピアノ]
西本夏生 [ピアノ]

クロード・ドビュッシー 没後100年 命日前日 メモリアル・コンサート

1918年3月25日に世を去った
不世出の大作曲家。
「忘れられた映像」の
日本初演を果たした青柳いづみこが、
30余年の研究の精華を注ぐ
渾身の追悼演奏会。

2018.
3/24 (土) 浜離宮朝日ホール
都営地下鉄大江戸線「築地市場」駅 A2出口すぐ TEL.03-5541-8710

●チケット・全席指定
一般 前売4,500円 当日5,000円
学生 2,000円
昼夜セット券 8,000円

●チケットの問い合わせ先
東京コンサーツ
03-3200-9755 (平日10:00-18:00)
東京コンサーツウェブチケット
<http://www.tokyo-concerts.co.jp>
朝日ホールチケットセンター
03-3267-9990 (日・祝除く 10:00-18:00)

*就学前のお子様のご入場はご遠慮いただいております。
託児サービスをご利用ください。
イベント託児・マザーズ (要予約) 0120-788-222

主催: 朝日新聞社/東京コンサーツ
後援: 一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会 (ピティナ)
※曲目・出演者は変更になる場合があります。

企画・制作 青柳いづみこ

[昼公演] ドビュッシーが見た夢 ~10年ぶりのソロ・リサイタル

14:00開演 (13:30開場)

クロード・ドビュッシー (1862~1918) 夢 (1890) —— ロシアの響き
忘れられた映像 (1894) —— ものごとの半分まで言って
映像第2集 (1907) —— 東洋への憧れ
牧神の午後への前奏曲 (1894・高橋悠治による連弾版) —— 官能と色彩
◆
前奏曲集第1巻 (1910) 全12曲 —— 「イベリア」からの引用



青柳いづみこ
©Hideo Goto

[夜公演] ドビュッシーの墓に ~書簡の朗読をまじえて

19:00開演 (18:30開場)

『ルビュ・ミュージカル』 1920年12月号付録「クロード・ドビュッシーの墓」より
ポール・デュカ/フローラン・シュミット/イゴール・ストラヴィンスキー/
マニユエル・ド・ファリャ/ベラ・バルトーク 等の追悼曲

エリック・サティ 『最後から2番目の思想』 (1915)より「牧歌」(ドビュッシーに)
ジェルメーヌ・タイユフェール ドビュッシー讃 (1920)
ゾルタン・コダーイ 『7つの小品』より「エピタフ(墓碑銘)」(1918)
モーリス・ラヴェル 亡き王女のためのパヴァーヌ (1899)
◆
クロード・ドビュッシー 2つのアラベスク (1891)
『グラナダの夕暮れ』 (1903・デュランによる連弾版)
『管弦楽のための映像』より「イベリア」 (1910・カブレによる連弾版)
子供の領分 (1908)より ~シュシュへの手紙を朗読しながら



高橋悠治
©Hideo Goto



西本夏生

ロビー展示 未完のオペラ『アッシャー家の崩壊』『ヴァイオリン・ソナタ』自筆譜コピー、バレエ音楽『遊戯』舞台スケッチ、『おもちゃ箱』初版楽譜、
『牧神の午後への前奏曲』自筆譜ファクシミリ版、『ルビュ・ミュージカル』1920年「ドビュッシー追悼号」他。

青柳いづみこ (あおやぎ いづみこ/ピアノ&トーク)

ピアニスト、文筆家。安川加壽子、ピエール・バルビゼの各氏に師事。フランス国立マルセイユ音楽院首席卒業、東京芸術大学大学院博士課程修了。武満徹・矢代秋雄・八村義夫作品を集めた『残酷なやさしさ』により、平成2年度文化庁芸術祭賞。執筆と演奏を両立させる希有な存在として注目を集め、10枚のCDが『レコード芸術』誌で特選盤となるほか、師安川加壽子の評伝『翼のはえた指』(白水Uブックス)で第9回吉田秀和賞、祖父の評伝『青柳瑞穂の生涯』(平凡社ライブラリー)で第49回日本エッセイストクラブ賞、『6本指のゴルトベルク』(中公文庫)で第25回講談社エッセイ賞、CD『ロマンティック・ドビュッシー』(カメラータ)でミュージックペンクラブ音楽賞を受賞している。近著に『ショパン・コンクール』(中公新書)、『ピアニストたちの祝祭』(中公文庫)、CDに『春の祭典・ペトルーシュカ』(アールレゾナンス)。2018年にはCD『ドビュッシーが見た夢』(コジマ録音)、西本夏生との共作で『ドビュッシーの墓に』(アールレゾナンス)、CDブック『おもちゃ箱』(学研)刊行予定。現在、高橋悠治論、ドビュッシー論を執筆中。日本ショパン協会理事。大阪音楽大学教授、神戸女学院大学講師。オフィシャルHP <http://ondine-i.net> 公式Facebook <https://ja-jp.facebook.com/aoyagi.izumiko>

高橋悠治 (たかはし ゆうじ/ピアノ)

1938年東京に生まれる。柴田南雄、小倉朝、ヤニス・クセナキスに学ぶ。1963-66年フランス、ドイツで現代音楽のピアニストとして活動、1966-71年アメリカで演奏活動とコンピュータ音楽の研究。1972年に帰国し、74-76年武満徹らと共に作曲家グループ「トランソニック」を組織して季刊誌を編集。1978-85年「水牛楽団」で世界の抵抗歌をアレンジ・演奏、1980-87年月刊ミニコミ『水牛通信』発行。著書として平凡社から『高橋悠治/コレクション1970年代』『音の静寂静寂の音』、みすず書房から『きっかけの音楽』『カフカノート』などが刊行されている。
<http://www.suiguu.com/yuji/>

西本夏生 (にしもと なつき/ピアノ)

北海道富良野市出身。早稲田大学卒業。東京芸術大学大学院、スペイン・カタルーニャ高等音楽院、カステジョン高等音楽院各修士課程にて学ぶ。San Giovanni Teattino国際ピアノコンクール第1位、マルタ国際ピアノコンクール第2位等、ヨーロッパにて数多くの賞を受賞。2014年にはフランスのPiano à Castelnaudary音楽祭に招かれ、そのリサイタルは現地で高い評価を得た。ソロ活動のみならず、ピアニスト佐久間あすかのピアノデュオpiaNAとしても幅広い活動を展開。2012年、カプースチンの4手作品ばかりを集めたCD "piaNA plays Kapustin"をリリース。同年、カプースチン本人よりpiaNAに2曲のピアノデュオ曲「Three for two op.145」「Capriccio op.146」が献呈されている。2017年にはソリストとしてカプースチンの「ピアノ協奏曲第6番」のヨーロッパ初演をバルセロナ市立ウインドオーケストラとスペインにて果たし、現地で熱狂を巻き起こした。
<http://www2.furano.jp/natsuki/>



©Hideo Goto



ストラヴィンスキー
(作曲者による連弾版) **好評発売中!**
バレエ音楽
『春の祭典』
『ペトルーシュカ』
*ボーナストラック「3つのやさしい小品」

青柳いづみこ、高橋悠治 (ピアノ連弾)
録音: 2017年6月27-29日
五反田文化センター音楽ホール

●RRSC-20003 SACD ハイブリッド オープン価格 20ページ解説書付
特別寄稿: 青柳いづみこ、高橋悠治 楽曲解説: 池原舞 (音楽学者)

発売: 株式会社アールレゾナンス 販売: 株式会社キングインターナショナル

ジャポニスムを反映した「海」を初めフランス音楽の名曲全14曲収録!!



LA MER 海
ドビュッシー没後100年
WPCS-13736 ¥1,800(本体)+税
選曲・解説: 青柳いづみこ
ドビュッシー: 夜想曲:雲 / 交響詩「海」:海の夜明けから真昼まで / 忘れられた映像:レント / 映像第1集:水の反映 / 映像第2集:そして月は庵寺に満ちる / 金色の魚 / 版画:塔 / 12の練習曲:4度のために
ラヴェル: 水の戯れ / 鏡:夜蛾 / 悲しき鳥 / 洋上の小舟
ストラヴィンスキー: 歌劇「夜鶯」:夜鶯の歌(喜び満ちた心、花の香りの満ちた庭)
メサジエ: 歌劇「お菊さん」:舞たちの歌(お聞きなさい、舞たちの声を)
Claude Debussy: The Complete Works / ドビュッシー作品全集【輸入盤】
商品番号:9029.573675 [33CD] (17年未発売)
絶賛発売中

ドビュッシー没後100年 特別サイト ▶ <https://wmg.jp/special/debussy100/>



青柳いづみこの本

モノ書きピアニストの面目躍如。演奏の現場から生まれた音楽エッセイ

ピアニストたちの祝祭

—— 唯一無二の時間を求めて

ショパン・コンクール

—— 最高峰の舞台を読み解く



日本国内のクラシック・イベントに密着。同業のピアニストのステージを、克明にとらえた音楽祭見聞録。自ら出演した舞台裏も活写する。〈解説〉篠田節子
●820円

ポーランドのワルシャワで五年に一度開催される、世界最高峰のピアノ・コンクール。モノ書きピアニストが見た、若者たちの憧れと現実とは
●880円



重版出来!

中央公論新社 〒100-8152 東京都千代田区大手町1-7-1 www.chuko.co.jp ○表示価格には税を含みません



株式会社河合楽器製作所 浜松市中区寺島町200 tel.053-457-1311 www.shigerukawai.jp